

平安伸銅工業株式会社

アイテムの充実・拡大で
豊かな暮らしを提供海外
発注可
企画力
自信有
量産
対応

主力製品の「突っ張り棒」

主な事業内容

収納用品を中心とした
日用品の製造・販売

主な取引先(納入先)

ホームセンターなど
各種総合小売業

主な製品

突っ張り棒、突っ張り棚、収納用品、
DIYパーツ、防災用品など業務
内容
業態転換支えた
「突っ張り棒」の開発

平安伸銅工業は、昭和27年に金属押出成形工場として創業。その技術を生かして家庭用アルミサッシの量産に成功し、戦後の住宅復興を支えた。その後、竹内香予子社長の父で現会長の笹井康雄氏が、米国のシャワーカーテン用レールの伸縮棒をヒントにした「突っ張り棒」を開発。それを機に、50年に日用品事業に業態転換した。以来、同社は「豊かな暮らしを支えるアイテム」を生み出し、現在ではDIYパーツ「LABRICO（ラブリコ）」やミニマムインテリア「DRAW A LINE（ドローアライン）」などにジャンルを拡大、顧客に愛されるブランドづくりに取り組んでいる。

強み
アイデアと技術で
暮らしを豊かにする

同社には「アイデアと技術で暮らしを豊かにする」という創業時から一貫したビジョンがある。製造技術と洗い出した顧客ニーズを掛け合わせて「意味のイノベーション」を起こすことが、同社の日用品分野での企画・開発を語る上では欠かせない。また、新商品開発や新市場の創出にもその精神が息づいて

おり、突っ張り棒の技術を応用したDIYパーツ「ラブリコ」などで具現化されている。

また、機能的価値だけではなく、便利な機能を通じてどんな暮らしが実現できるかという「情緒的価値」の設計にも力を入れる。感情に訴求することで自社の「ファン」を増やすブランド戦略も注目されるところだ。

商品
展開
デザイン経営で従来の
価値を覆す新ブランド

デザイン経営を実践し、自社ブランドとしてホームセンターを中心に展開する「ラブリコ」、インテリアやライフスタイルショップ向けの「ドローアライン」を立ち上げて販路を拡大。今後も自社技術のみにとらわれない新技術を活用した新たな商品ブランド展開も視野に入れている。実現に向けては、ファブレスメーカーの強みを生かして、国内の優れたものづくり企業との連携を密にして取り組む。

業態転換後も創業時からの社名にこだわりを持ち、創業者の「お客様へ豊かな暮らしを提供し続けていく」精神を引き継ぐ。竹内社長は「社名は大切にしており、今後も変えるつもりはない」と言い切る。

社長あいさつ



代表取締役

竹内 香予子さん

ものづくりのプロの皆様の技術と連携して、ユーザーの「私らしい暮らし」を実現したいと思っています。私たちのアイデアを具現化する際に力を貸してくださいの会社を探していますので、よろしくお願いいたします。

主な保有設備

■ 非公開

全国
02

住 所／〒550-0002
大阪市西区江戸堀1-22-17
西船場辰日ビル4階

T E L／06-6228-8986

F A X／06-6147-7303

創 業／昭和27年

設 立／昭和52年7月

資本金／4,900万円

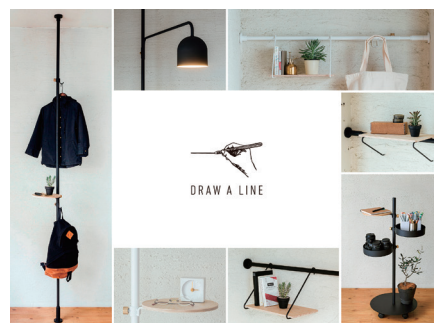
従業員／65名



LABRICO



[LABRICO (ラブリコ)]



[DRAW A LINE (ドローアライン)]


<https://www.heianshindo.co.jp/>